第3巻 第2号　　徳島　1916年3月26日

ヴェルダン

2月28日以降、堅固さでは第2位で最も近代的なフランスの要塞をめぐって、きわめて熾烈な戦闘が吹き荒れている。ヴェルダンを奪取するのがわが軍参謀本部の意図なのかどうか、この戦いが西部戦線でのさらなる大きな企図の幕開けなのかどうか、ただここでフランス軍に戦わせて、フランス軍がこの春に予告している大攻勢に先手を打つためなのかどうか、それとも東部で新しい一手を打てるように西部戦線でこれから先の数ヶ月静穏にしておきたいためなのかは知らされていないし、おそらくわが軍参謀本部の秘密でもあるのだろう。誇大広告のように自分の意図を世界に前もって知らせておくような習慣など持ち合わせていないのだから。

この間にヴェルダン付近で獲得した制圧地域は、フランス軍とイギリス軍がロースとアラス付近での秋の攻撃で獲得した地域の4倍の広さであり、わが軍はまだヴェルダン戦を終えたようには見えない。3月12日ま

でにヴェルダン近郊で将校 430 人、兵卒 26,042 人を捕虜とし、大砲 189 門と機関銃 232 丁を捕獲した。

フランス側は、わが軍のこの戦いでの死傷者が 20 万人にのぼると主張したが、これはもちろん、広い地域を失い、多大の物質的損害をこうむったことを秘密にはしておけなかったために、フランスの世論をなだめる目的で適当にでっち上げたものにすぎない。

この部分の戦場に滞在しているドイツ全紙の代表者は異口同音に、わが軍の損失は驚くほど少ないと報道している。モラート退役大佐はその有名な週間展望のなかで、わが軍の成果は最大限に人間を大事にして、物資をきわめて大胆に投入することによって成し遂げられたものであると述べているが、これは戦争の間ずっとわが軍の指導者たちが守ってきた原則なのである。このことは、今までのフランス軍における兵士の損失が、あちこちの前線でのわが軍の損失すべてを合わせた数よりも多いという事実に照らせばもっとも明瞭に示される。それゆえ、ヴェルダン近郊でのわが軍の犠牲者に関するフランス側の報道にいら立つ必要はないのだ。

ヴェルダンの最重要な外郭要塞のひとつであるドゥオーモンはわが軍の手中にある。一方これに隣接する「ヴォー」要塞は、ポーゼンの 2 個の予備連隊が突撃奪取したものの、フランス軍に取り返されたらしい。これについての手許にあるニュースはあまり明確ではない。

制圧地域の拡大については、— 以上の概観から見て取れるように — ヴェルダンをめぐる我が軍全体の情況の本質的な改善ともちろん結びついていた。

当然ながらヴェルダン近郊で達成されたことを喜んで良いのだし、イギリスとフランスによる歪曲と虚偽の報道によってこの喜びの調子を狂わされたくはない。

『トクシマ・アンツァイガー』に見られる俘虜の生活

嬉しいことに、ニューヨーク州新聞に『トクシマ・アンツァイガー』を主として取り上げている記事が見られる。この記事の内容は以下の通りであるが、聞くところではもともと『フランケン・クリーア』紙に載っていたものである。

「俘虜のための興味深い新聞の名前は『トクシマ・アンツァイガー』という。このタイトルから分かるとおり、これは日本で作られたもので、新聞の冒頭部にある記載によれば需要に応じて出版され、俘虜収容所のみ配布されるものである。その内容から、ここの俘虜は自立的な発言の無制限の権利を有しており、この権利を政治と文化のあらゆる面で大幅に使っていることが推察される。たとえば、「1915 年と 1812 年」という冒頭記事では、ロシアとその同盟国がロシアの敗北を隠すためにロシア軍はドイツ軍に二度目の 1812 年を味わわせるためにわざと退却したのだという、よく使う言い訳を心地よいほど率直に、そして仮借なく間抜けな苦し紛れの言い逃れと断じている。その次の記事では、ヴィルナを制圧したことについ

て同様に率直な評価が行われている。その後の記事で取り扱われているのは、日本の陶磁器産業とリヒャルト・ワーグナーの詩人ならびに作曲家としての意義についてである。この新聞にはトランプとチェスおよびドイツの歌を取り上げている独自の「コーナー」さえあり、さらには9月26日開催の「第20回コンサート」のプログラムと商業に関する講演と商業簿記講座がもうすぐ始まることが告知されている。この新聞は同一人物による手書き文字で作られており、イラストも描かれていて、こんにゃく版で複製印刷されている。これは、日本に収容されているドイツ人俘虜の精神が活発であり、多彩な活動を行っていること、そしてまた少なくともトクシマにおいて享受しているのではないかと思われる比較的大きな自由があることをまざまざと示している。

収容所展望

「春はごうごうと音を立てて近づく」まさにこういう嵐に雨とにわか雪を伴った4月の天気とともに、新しい季節の到来が告げられる。至る所の家の庭には、咲き誇る桜と椿が見られる。柳はもう緑の芽を吹き、堤と畦の枯れた黄色っぽい灰色の草の中から深い緑が顔をのぞかせている。厳しい冬将軍の統治は終わり、「春にならねばならない」のである。日本人は春の始まり、つまり昼と夜の長さの等しい春分の日を祝日（春季恒例祭）として祝う。われわれが祝日であるのに気づくのは、たいてい隣の学校の生徒が登校して来ないからである。収容所の中庭では春の作業が盛んで、花壇を耕し、溝を掘り、わらと灰を施している。小規模な園芸農園が活躍の場を見いだした格好である。もうすぐあらゆる種類の花が新しい花壇でやさしい香りを振りまき、さまざまな彩りが固く踏みしめられた裸の地面と好対照を描くことであろう。

体操団は、練習時間に関しては全く不運な目にあっている。この数ヶ月

ほとんど毎週、天気が悪いとか外出があるとか、視察があるなどで練習が休みになっている。もちろん、平行棒はいつでも体操したいものが使えるし、実際よく使われている。今ようやく、以前から期待されていた鉄棒が加わった。これで、長らく要望されていたことが実現するわけである。「位高き者には必然の義務あり (Noblesse oblige)」の原則にしたがって、ソーセージ製造所はその支配人の誕生日を祝い、食事の参加者全員にサラダにソーセージからなる豪華な夕食を提供した。おいしく量もたっぷりだった、というのが全員一致の判断である。ただ残念なことに、誕生日は年に 1 回しかないが、ひょっとしたら他の作業員の誕生日も同じようなご馳走へのきっかけにしてもらえるかもしれない。

天気の神様の気まぐれの犠牲となったのは、木曜日午後に海岸まで出かけた者である。海岸までは風を背に受けて、なかなか快調だった。何人かの帽子が吹き飛ばされて泥まみれになったり，水の中に落ちるのは、陽気な幕間劇であった。津田の海岸では砂嵐が地を這い、陸地に打ち寄せる波は白い波しぶきとなって飛び散った。船はたった 1 隻の汽船だけ、それが風と波に向かって苦労しながら進んでいる。最初あんなにくっきりと見えていた山は、どんどんと厚い雲に覆われ、その雲が吉野川の平野部や海へと下りてきた。海に重くたれ込めた雲はまず淡路島を隠し、それから眉山も灰白色の壁の後ろに隠れてしまった。急ぎ足で帰途についたが、川にかかる大橋のところでもうひどい嵐の中に巻き込まれてしまった。顔に叩き付けられる雪はまさに針のようであり、風の向きが絶えずくるくる変わり、からだのどちらの側も雪を受けた。私はすでに凍えていたが、足袋を濡らさないように裸足で歩いている男がこちらへやって来るのを見たとき、なおいっそう温度が下がったように感じた。「踏んだり蹴ったり」とはこのことで、この地の子供たちが戸口のすきまから顔を出して、ずぶぬれになった連中を見て笑っている。そして外出した者たちは、居残り組から嘲笑をもって迎えられたのだった。だが、そんなことで挫けはしない。やがて服を脱ぎ、また顔を出す。たとえさっき着ていたものが 5 月用のズボンか白

い肌着であったとしても。どんな嘲りにも耐え，心のうちで「でも、やっぱり良かった」と思うのだった。

郵便は相変わらず小包だけ。手紙は滞ったままである。ときどき､ふらっと舞い込むものはある。奇妙なことに、これらの手紙は当地の郵便局のスタンプから判断して、何週間も前に到着したものである。これをどう考えれば良いか、さっぱり分からない。

チェス・コーナー

（駒の略語　K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン）

第 97 問の解答

1) Df7 - h7　　任意の手

2) Se2 - f4(c3)　詰み

第 98 問の解答

1) Lf2 - d4　　Lc5 × d4

2) Ta5 - e5　　任意の手

3) D か T で詰み

この他の変化も容易

正しい解答を送ってくれたのはヨーゼフ・ヴェーバーである。

第 99 問

白：Kb6, Df1, Te1, e4, Sg3

黒：Kd5, Tb1, g6, Sd4, Ba2, b3, d6

２手詰め

第 100 問

白：Kg1, Dg2, Td6, La3, Se4, Bb4, f7, g5

黒：Ke5, Df8, Tb7, d7, Lh5, Bb6, c7, g3

３手詰め

袁世凱（2）

そこで将軍は受諾した。この高官の子息は弱冠 23 歳にして呉将軍の部下の中に影響力のある地位を手にした。その当時すでに直隷総督で全権を掌握していた李鴻章はこの才能あり、努力家である若者にやがて目を付けて、かれをますます責任ある役職につけたのである。最終的には、彼を朝鮮の商務ならびに外交部の局長に任命するよう推挙したのである。

このように袁は若くして危険で波乱の多い地位についていた。日本がほとんど御しきれないほどの欲望を見せて熱望する近くの獲物に手を伸ばしていることがますます明瞭になっていった。当時ソウルの弁理公使 (総理朝鮮通商交渉事宜) であった袁に対し、とりわけカイ・フンミンは袁が大ぼらを吹いたために日本との交戦に到ったのだと非難している ー これはまったく証拠もなく、不当な意見である。ただひとつはっきりしているのは、袁のもとに戦争の勃発前に多少なりともイギリスから援助の大きな約束が届いていたにちがいなく、それを彼がある程度か、ひょっとしたら完全に拘束力のある同意として李鴻章に伝えていたことは疑いもない。いま人の知るとおり、イギリス野郎は約束と援助の申し出をさっさと反古にするのだから、朝鮮で先例を作っていたとしても驚くにはあたらない。戦争（日清戦争のこと）の経過とその失うことの多い結末は知ってのとおりである。

下関講和の重圧的な条件によって李鴻章は失脚した。北方の都では改革主義者が国の舵を握り、康有為の考え方が支配的な政策となった。袁世凱はこの新しい路線に加わり、父親の古くからの友人、丁汝昌提督の斡旋によって皇后の寵臣栄禄の下にある新設軍の副指揮権を手に入れた。

この時期に西太后のクーデターが起き、これによって彼女はふたたび政権を奪取し、改革に好意的な光緒帝を廃位した。このとき袁世凱が今日まであまり解明されていない経過の主役を演じたとされている。光緒帝は康有為の計画に沿って改革の勅令をつぎつぎに発布していた。この勅令は今

ある支配体制を根底から揺るがせ、旧来の秩序をその急速な変革によって混乱に落としかねないものであった。

1898 年[1]9 月 13 日、皇帝は西太后に改革運動を認めさせようと彼女に対して最後の絶望的な試みをする。万寿山での謁見が完全に失敗したことで、事態が進展する。2 日後光緒帝は袁世凱を北京に呼び寄せる。帝は彼を「軍改革者」に任命し、一つの地位を与えた。ここで極秘裏に交わされたとされる協定については、多くの真実と嘘とがセンセーション好きな新聞によって世界に向けて発信された。ただひとつ確かなことは、袁は年老いた仏、西太后に対して決定的な一撃を加えるために選び出されたということである。のちに中国の文士仲間のあいだでは、皇帝は袁に栄禄の処刑を依頼したという噂が消えずにいた。フランケによればその噂はこの危機的な時期に中国を旅行していたピエルポン・モルガンが最初に広めたものだそうである。いずれにしろ、皇帝が袁にそのような任務を託したという可能性は直ちに打ち消せるものではない。こうした計画に袁が同意したことについては、いろいろな読み方ができる。一方にはあからさまにせよ、遠回しにせよ、袁は皇帝に対しあらゆる点で忠誠を誓ったのに、のちにそれを裏切ったのだと言う人たちがいる。他方、とりわけ梁啓超がそうだが、その発言の中で、そのような計画があったとしても、袁は光緒帝の計画にいやいやながら同意したのだとほのめかす人たちもいる。

9 月 20 日、袁は天津に戻る。噂ではそれは、栄禄が北京への使節のことが不安になり、政治的な理由から「危機にある人物」の送還を西太后に頑強に催促したからだという。9 月 20 日の夜、両者は天津にある栄禄の衙門で会合を行った。ここで起こったことも、北京の宮殿での経緯と同様、外界には閉ざされている。いずれにせよ、皇帝派の危機的で不安定な情況を賢明にも認識したのであろう、袁は栄禄に光緒帝の策謀と意図とを明らかにしたのであろう。翌日には栄禄は北京に出た。あらゆる礼儀作法を無視して彼は宮殿に入り、年老いた仏に陰謀計画の全容を明かした。西太后

1　原文の 1888 年は誤り

は直ちに従順な枢密院の面々を召集し、その日のうちに「皇帝のたっての要望により」彼女が政治に改めて助力を行うとする勅令を発した。一方その同じ時刻には、不運な皇帝を従順な衛兵と宦官で取り巻き、虜囚として小さな瀛台（エイダイ）島に連れて行かせた。

世紀が変わる頃には義和団が蜂起した。1896年にはすでにこの巨大で熱狂的な内乱の予兆があった。1900年に袁世凱は山東省の長官についた。袁は最初から熾烈な対応を取り、それによって最初はこの地方を拠点としていた義和団の荒くれどもを次第に山東省全域から閉め出したのである。そこで彼の治める地方はほとんど混乱を受けることはなかった。その間、北中国では殺人と放火が猛威をふるっていた。フォン・ケットラー男爵は北京で総理衙門[2]に向かう途中で暗殺され、支柱を失くした公使館は包囲された砦となってしまった。西太后自身は粗暴な反乱者側に立ち、外国人ひとりひとりの首に賞金を約束した。李鴻章、袁世凱、栄禄、良識的な張之洞といった男たちは、摂政皇后が極端なことをしないよう全精力を傾けたが、むなしかった。最終的には自助努力をし、苛酷な刑によって自分の治める地方の秩序を守るよりほかなかった。義和団の乱は外国人によって流血の下鎮圧され、年老いた仏は逃亡によって身の保全をし、後にぎりぎりになんとか、老齢の李のとりなしのお陰で再度龍の玉座に戻ることができたのである。

1901年11月7日、李が死んだ。偉大な老人は彼岸に去ったが、帝国が孤児になることなかった。彼はその全盛期にあるときに進んでその足跡をたどろうとしていた後継者を残したのである。その男こそかつて彼の保護を受けていた袁世凱である。西太后は1902年11月に直隷総督に任命した。西太后自身はもはや改革精神に心を閉ざすことはなくなり、至る所で新時代の息吹が感じられた。ついには、段階的に調整を行うことによってのみ目標に到達することが認識され、それに従って行動が取られた。袁は自らの小さな軍勢を地盤に次第に規律の行きとどいた軍隊を作り上げ、やがて

2　外務省にあたる役所

彼の麾下の兵士は６万人を越えた。南部の袁の偉大な同職者、張之洞は西洋精神が混和した日本文化をより好み、自分の治める地方の若い学生たちを日出ずる国の大学講座に派遣していた。それは中国人と本質的に類似する日本人の生き方と言語が新しい政治政策の習得に決定的かつ促進的なものと考えたからである。一方で袁はますます純粋な西洋文明・文化に傾いていった。それが当地で長らくその布教の正しい理解と完全な評価が見いだされなかったのは、彼のおかげである。

11 月 15 日に老皇太后は死去した、それは光緒帝（廃帝）が彼岸の旅立ちへの龍の馬車に乗った数時間後のことであった。醇親王がまだ幼い宣統帝の摂政となった。彼の務めは不幸な兄の遺言を実行することであった。どうしたかは、翌年の１月２日は早くも袁を不興により解任した時明らかとなった。10 月９日に漢口で孫［文］とその加担者があらゆる手段によって準備し組み立てた革命が勃発した。やがて南部全体で革命をもくろむ軍と徒党の合い言葉がこだますようになった。玉座にまで「滅満興漢」（原文には引用符なし）の声が聞こえるようになった。政府は無力であった。助けとなる男はただひとり、袁だけであった。10 月 14 日の勅令により彼は湖北・湖南の総督および皇帝軍の司令官に任命された。しかし袁はなおもためらっていた。最終的にかれは西太后に思いをはせつつ、要求に従う用意があると明言した。彼の登場により、おそらく反乱者の武運が傾き、征服した多くの町から速やかに追い出されてしまった。しかし玉座はもはや強力なものではなくなっていた。以前のように、ふたたび革命家や改革者からの要求が吹き出してきて、政府はあわてて約束を出していった。その間に政府委員会は新憲法を発布し、これによりイギリスを手本として議会に本来の政治がゆだねられることとなった。数日後同じ委員会が袁世凱を総理大臣に選任した。11 月 16 日に袁は最初の内閣を作った。— 彼は国民党を自らの主義主張に反して与党として認めざるをえなかった。この時以降、清朝は息の根を止められたことになる。袁自身もこのことを理解していた。いずれにしても、その後の彼の行動を見るとそれがよく分かる。皇

帝軍は革命軍部隊に対してさまざまに勝利を挙げたけれど、袁はその勝利を強力な王朝を背にし、実権を握る支配者に支えられて手にしたかのようには利用しなかったのである。

そのとき突然、摂政王が辞職し、故光緒帝の未亡人である隆裕（皇太后）が摂政となった。袁はますます公然と和平交渉に出るようになり、12 月２日に武漢で革命軍司令官の黎元洪と最初の停戦交渉をおこなった。その結果は上海、南京と場所を変えつつ行われた結論の見えない議論であった。袁は考えあぐねているように見えた — それは目下のところは不明瞭でおぼろげな形しか見せない構造物を形成するための時間稼ぎをしていたからかもしれない。

12 月 26 日にはアメリカとイギリスで革命運動のための資金をかなりの成功を収めて集めてきた孫文が上海に到着、４日後には南京で共和国の臨時大統領に選ばれた。その間、袁は北京で皇太后および親王と交渉をしていた。

つづく

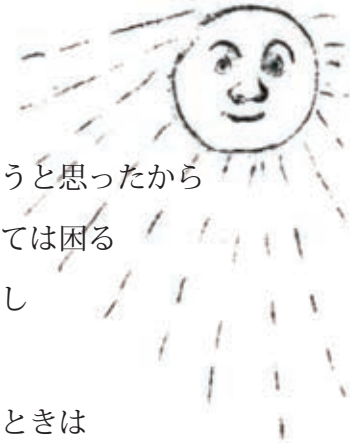
シュピーゲル（鏡）

『トクシマ・アンツァイガー』
第３巻第２号
（1916 年３月 26 日）
ユーモア付録

休 日

（召し上がれ！）

春が来た



ストーブは取り払われた
というのも、それで大丈夫だろうと思ったから
しかし北西風には吹いてもらっては困る
この風はあらゆる隙間から侵入し
指先をかじかませる
とりわけジャガイモの皮むきのときは
そうこぼす者がいるだろう
こういう次第ではあるが、今では
中庭はもう前より人がおおくなった
むっとする部屋のにおいを避けて
新鮮な空気をすいながら散歩をするのだ
何人かはもう体を動かし、
デッキチェアで勉強にいそしむ
あちらこちらで土が掘り返され

少しの空き地、壁も
庭造りに利用される
夏にはうれしい結果が見られる
ひそひそ声で、堆肥とか栽培、
野菜畑、花畑、
キュウリ、アスパラガス、植物などと言う

そういったものはもう欲しくてしかたないのだ
心密かに楽しみにすること、
それは日曜日に
この自作野菜のいくつかが
ときに食卓にあがることである。
そうすればあまり変わりばえしない食事が
たとえようもなく変わることだろう。
ことしはアヒルの飼育は割に合う
この鳥の値段はそんなに高くないが
焼き鳥となるとやはり
財界首脳の食事でしかない。
今の時代の中産階級には
そんな贅沢はやりようがない。

髭剃りができなくなり、
すばらしいザウアークラウトを喜んで
あちこちへ芽吹かせる
哀れな男はましてやそうである。
家の建築は増大したが、
これは多くの者にとって大いに役立つものなのだ
その内部には心をこめて
いろいろな作業が行われている
６人以上ではおそらくたいてい不可能な

船首楼の作業だ。
展示会がもう近づいてきた
出品者にはその報酬として
作業、苦労、勤勉、成果に対して
褒賞を獲得できるかもしれない
このようにわれわれは我慢強く、陽気に
夏に向かってどんどん進んでいく。
そしてこの夏がついには
万事新しい方向へのうねりをもたらし、
（君たちに白状しておかねばならない）
やがて終結の時を見るのだろう。

サーカスで

アウグスト：ねえ、きのうある人からシェンテルマン[3]って呼ばれたんだけど、これ何のことか知らないか。

シェンテルマン？いや、知らないね。

でね、ともかくも奴の横っ面にビンタを喰らわしておいたんだ。

3　英語ジェントルマンのドイツなまり発音